

令和6年度事業実績報告書・令和7年度事業計画書 1
南部地域包括支援センター

1 基本情報

(1) 事業所情報（令和7年4月1日時点）

名称	南部高齢者なんでも相談室(地域包括支援センター)	
所在地	流山市平和台2-1-2	
法人名	社会福祉法人 流山市社会福祉協議会	
センター長	中尾 陽子	
職員体制	保健師その他これに準ずる者	3人
	社会福祉士その他これに準ずる者	3人
	主任介護支援専門員その他これに準ずる者	2人
	(事務員)	1人

(2) 担当地域情報（令和7年4月1日時点）

担当地域	大字三輪野山/三輪野山一～五丁目/大字流山/流山1～9丁目/大字加/加一～六丁目/市野谷/平和台1～5丁目/大字木/木一～三丁目/南流山1～10丁目/大字鰯ヶ崎/鰯ヶ崎一～二丁目/鰯ヶ崎/大字西平井/西平井一～三丁目	
人口	66,609人	
65歳以上人口	12,826人（高齢化率）	19.3%
75歳以上人口	7,430人	
要介護者数・要支援者数	2,390人（対65歳以上人口）	18.6%
居宅介護支援事業所	10か所	
介護保険事業所等	訪問介護事業所	13か所
	訪問看護事業所	12か所
	通所介護事業所（地域密着型含む）	17か所
	通所リハビリテーション事業所	0か所
	訪問リハビリテーション事業所	1か所
	短期入所生活介護事業所	2か所
	短期入所療養介護事業所	0か所
	特定施設入居者生活介護事業所	1か所
	介護老人福祉施設(地域密着型含む)	1か所
	介護老人保健施設	0か所
	認知症対応型共同生活介護事業所	2か所
	認知症対応型通所介護事業所	0か所
	小規模多機能型居宅介護事業所	1か所
	看護小規模多機能型居宅介護事業所	0か所
	定期巡回・随時訪問型訪問介護看護事業所	1か所
	ケアハウス	0か所
地域包括支援センターの運営方針	1.高齢者やその家族等、一人ひとりが生きがい、役割をもって楽しく生活が送れるように、支援していく。 2.地域で生活を続けていくための地域資源の活用、地域の様々な機関(介護、医療、行政、保育園、幼稚園、小・中学校、高校、商業施設等)のネットワークの構築に力を入れる。	
地域特性と課題	南部地域の人口は1年間で1,109人増えており、現役世代の増加が継続している。総人口、66,609人でとても人口の多い地域。令和6年4月に、小学校2校が開校した。元々高齢者人口も多い地域で、後期高齢者が1年間で330人増えている。現役世代、高齢者世代共に多く、バランスの良い活気ある地域である。	

令和6年度事業実績報告書・令和7年度事業計画書 2
南部地域包括支援センター

2 概要(重点目標)

(1) 令和6年度事業報告(重点目標)

重点目標 1	その人らしい生活を送れるように、自己決定を重視し、支え合える支援ネットワークを構築する。	
	(具体的対策)	・保育園、小学校、中学校、高校、医療機関等に訪問し包括の役割の周知等をしていく。世代を超えての地域活動を目指す。 ・コミュニティケア会議の事前準備として、地域、学校等がお互いに何を求めているかを確認し、双方向にメリットのある会議を目指していく。
	(実績)	・幼稚園のPR活動で高齢者の方々が活躍、親子にタオルで作るウサギ作りや魚釣り等実施した。 ・赤い羽根募金(バザー)で、高齢者の方々が活躍、工場閉鎖で不要になったペンケース等をデコレーションした。 ・多くの方が関われるように、川柳かるたを計画。約1,800句集まった。 ・多世代の関係機関でのコミュニティケア会議を実施した。
	(評価)	・幼稚園のPR活動は、多忙を極めたが、役目を終えた後の高齢者の方々は、文化祭を終えた後の高校生のように生き生きしていたのがとても印象的であった。 ・コミュニティケア会議時、積極的に繋がりたい関係機関に、声をかけている様子が見受けられた。
重点目標 2	加齢による心身の変化(認知症含む)について啓発する。高齢になっても役割(生きがい)を持って生活できる地域作りを支援する。	
	(具体的対策)	・地域に出向き、認知症の講座を開催し、認知症の理解を深めていく。 ・介護者(認知症含む)のつどいを定期的に開催し、介護者の家族も支援していく。 ・高齢(障害や認知症)になっても役割(生きがい)を持って生活が送れるように、わたしの居場所作りを実施する。
	(実績)	・介護者のつどいでは、介護者の方だけではなく、利用者の方にも参加してもらえるように工夫をした。 ・介護者のつどいで、薬膳料理を習っている方が講師として参加してくれた。 ・認知症サポーター養成講座では、ボランティアのキャラバンメイト(2名)の方が積極的に参加してくれた。
	(評価)	介護者のつどいで、介護されている認知症の方が昨年度は飽きてしまった為、今年度はその方は将棋が得意な為、将棋のボランティアの方にも参加していただいた。介護者の方は、介護者のつどいに落ち着いて参加できた。 ・認知症サポーター養成講座では、包括職員だけでなくボランティアのキャラバンメイト(2名)の方も参加したため、包括職員が俯瞰的に講座をみることができた。
重点目標 3	共生社会を目指すために、障害者支援等の理解を深める。当たり前の権利を守り生活が送れるよう、権利擁護に関する普及啓発、研修を行う。	
	(具体的対策)	・介護保険事業所に出向き、権利擁護(虐待防止)に関しての研修を行い、権利擁護(虐待防止)の理解を深めていく。 ・障害者支援、こども支援等の事業所との連携を密にしていく。 ・老い支度講座等を開催し、元気なうちから将来に備えておくことで、ご自身の思いが尊重され、いつまでも自分らしく、安心した生活が送れるよう支援する。
	(実績)	・介護保険事業所に、権利擁護(虐待防止)に関しての研修を実施した。 ・重層的支援会議等にて、障害者支援、こども支援等と連携を図った。 ・老い支度講座、地域に出向いたときに、元気なうちから将来に備えておくことを繰り返し伝えた。
	(評価)	・介護保険事業所からの、虐待疑い通報は、とてもハードルが高いことを再認識したため、事業所が相談しやすい機関となることの必要性を改めて感じた。 ・認知症が重度、劣悪な家族関係となつてからの相談が増えている、元気なうちからの関係作りがとても大切だと考える。

(2) 令和7年度事業計画(重点目標)

重点目標 1

地域資源の活用及び支え合える支援ネットワークを構築する。高齢になっても役割(生きがい)を持って生活できる地域づくりを支援する。		
(具体的対策)	・保育園、小学校、中学校、高校、商業施設等に訪問し包括の役割の周知等をしていく。 ・川柳かるた作りを通じて、ネットワークを広げていく。 ・コミュニティケア会議では、コミュニティコーピングを活用し、参加者がメリットを感じる会議を目指していく。	

重点目標 2

加齢による心身の変化(認知症含む)について啓発する。		
(具体的対策)	・加齢による心身の変化(認知症含む)についての理解を継続的に周知する。(元気なうちから包括に緊急連絡先を教えて欲しいと周知する) ・介護者のつどいでは、介護される方も参加できるよう努めていく。	

重点目標 3

共生社会を目指すために、障害者支援等の理解を深める。当たり前の権利を守り生活が送れるよう、権利擁護に関する普及啓発、研修を行う。		
(具体的対策)	・継続的に介護保険事業所向けに、権利擁護(虐待予防)に関しての研修を行い、権利擁護(虐待予防)の理解を深めていく。 ・ケアマネ交流会にて、障害者の制度及び対応についての理解を深めていく。 ・老い支度講座等を通じて、元気なうちから将来に備えておくことの重要性を伝えていく。	

令和6年度事業実績報告書・令和7年度事業計画書 3
南部地域包括支援センター

3 各業務

	令和6年度事業報告					令和7年度事業計画				
	計画	実施			評価	目標	計画			
総合相談支援業務	1.各機関や地域住民との連携 ①中学校区毎にコミュニティケア会議を実施。事前に、若い世代との連携についてアンケートを実施していく。 ②民児協定例会議、ケアマネ交流会にて民生委員との連携強化に取り組む。 2.センターの相談機能の向上 ①個別相談等から本人、家族の強みの把握に努め、個々の居場所作りや、居場所作りを支えて下さる仲間作りに努める。 ②困難ケースは、地域個別ケア会議等を活用し、課題解決に取り組む。 ③職員のメンタルヘルス、レジリエンスを強めるための研修を実施。	総合相談	電話	(延)	3,092件	1.各機関や地域住民との連携 ①小学校区毎にコミュニティケア会議を開催、若い世代の関係機関に参加してもらうが、3年目になり、参加者から積極的に、繋がりたい事業所にアプローチしている姿がみえた。 ②ケアマネ交流会にて民生委員、ケアマネ各々の仕事の内容について相互に理解できるように努めた。 2.センターの相談機能向上 ①個別相談、出前講座等から本人、家族の強みの把握に努め、その強みが活用できるように努めた。 ②地域ケア個別会議等を活用し、多職種で、課題解決に取り組めた。	1.各機関や地域住民との連携を深める。 2.センターの相談機能向上	1.各機関や地域住民との連携 ①小学校区毎にコミュニティケア会議実施。コミュニティコーピングを活用する。 ②民児協定例会議、ケアマネ交流会にて民生委員との連携強化に取り組む。 2.センターの相談機能の向上 ①個別相談等から本人、家族の強みの把握に努め、個々の居場所作りや、居場所作りを支える仲間作りに努める。 ②困難ケースは、地域ケア個別会議、支援会議等を活用し、多職種で課題解決に向けて取り組む。 ③職員のメンタルヘルス、レジリエンスを強めるための研修を実施。		
			来所	(延)	603件					
			訪問	(延)	961件					
			その他	(延)	90件					
		計	(延)	4,746件						
地域包括支援ネットワーク構築	・小学校区別のコミュニティケア会議を開催。子ども世代と高齢者世代のネットワーク構築について協議した。会議後、平和台幼稚園より、高齢者の方に、幼稚園のPR活動の依頼を受けた。 ・民児協への参加を継続。									
実態把握	介護予防ケアマネジメント時、総合相談時、出前講座時等に、本人、家族の強みを把握している。									
その他										
権利擁護業務	1.高齢者虐待への対応(権利擁護) ①関係機関と、協働で支援できるチーム作りに努める。 ②介護保険事業所に高齢者虐待防止(権利擁護)研修を働きかけ、研修を事業所に出向き実施し、関係構築に努める。 2.成年後見制度 ①個別相談対応向上の為に、研修を実施(年3回)。 ②老い支度講座の開催。 3.消費者被害 消費生活センター、地域の方より、消費者被害情報を収集し、地域の集まりなどで、注意喚起を行い、被害の予防に努める。	虐待の防止・対応	通報受理件数	(実)	7件	1.高齢者虐待への対応(権利擁護)の視点をもった対応の強化と、関係機関との連携の強化。 2.成年後見制度、老い支度講座等の周知に努める。 3.消費者被害における情報を収集し、最新情報を地域住民に周知する。	1.高齢者虐待への対応(権利擁護) ①関係機関と、協働で支援できるチーム作りに努める。 ②介護保険事業所に高齢者虐待防止(権利擁護)研修を働きかけ、研修を実施。 ③包括内で虐待研修。 2.成年後見制度 ①包括内で成年後見制度研修。 ②老い支度講座の開催。 3.消費者被害 消費生活センター、地域の方より、消費者被害情報を収集し、地域の集まりなどで、注意喚起を行い、被害の予防に努める。			
			(うち虐待ありと判断)	(実)	4件					
		消費者被害の防止・対応	・医療機関、介護保険事業所と連携しながらケース対応を行った。 ・虐待対応の研修を訪問介護事業所対象に開催。							
			・相談があがってきたら、消費生活センターに助言をもらいながら対応した。							
		成年後見制度等の普及啓発	・老い支度講座の開催。 ・成年後見制度について、外部講師を招き内部研修を実施。							
			判断能力を欠く状況にある人への支援	成年後見制度	(実)			27件	3.消費者被害 消費生活センター、地域の方より、消費者被害情報を収集し、地域の集まりなどで、注意喚起を行い、被害の予防に努めた。	
		(うち申立て支援)		(実)	7件					
		(うち市長申し立て)		(実)	4件					
		日常生活自立支援事業		(実)	6件					
		・成年後見制度、日常生活自立支援制度を利用する方が急増している。								
その他										
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	1.ケアマネ交流会(年3回) ①日常生活自立支援事業、成年後見制度について ②自立支援型地域ケア会議 ③民生委員との連携(生活保護制度含む) ※南部地域の9カ所の居宅介護支援事業所を訪問し、ケアマネの思いの把握に努める。 2.地域ケア個別会議(年1回) 3.自立支援型(重度化防止)地域ケア会議(年1回)	体制構築	ケアマネ交流会	(回)	3回	ケアマネ交流会(年3回) 家族力が低下しているため、日常生活自立支援事業、成年後見制度、生活保護制度等を利用する方の支援が増えているため、制度について学んだ。 毎年、民生委員との交流は行っている、各々の仕事の内容の理解について、継続で行う必要性を感じている。 居宅介護支援事業所訪問9カ所の事業所に直接訪問法改正により、ケアマネが担当できるプラン件数が増え、ケアマネの疲弊は増している。	1.ケアマネ交流会を活用しケアマネの資質向上 2.居宅介護支援事業所を訪問し聞き取り 3.自立支援型(重度化防止)地域ケア会議(年1回)	1.ケアマネ交流会(年3回) ①障害サービスの実際を学ぶ ・精神疾患をお持ちの方との関わり ・ケアマネのメンタルヘルス ②自立支援型地域ケア会議 ③民生委員との交流(地域の社会資源について) ※個別ケア会議 2.南部地域の10カ所の居宅介護支援事業所を訪問し、ケアマネの思いの把握に努める。 3.自立支援型(重度化防止)地域ケア会議(年1回)		
			(延)	108人						
		ケアマネへの個別支援	日常生活自立支援事業、成年後見制度について、利用者が増えている。主任ケアマネの更新研修(3時間)を実施した。							
			相談件数	(延)	202件					
		地域ケア会議	・成年後見制度、日常生活自立支援制度、生活保護制度の制度説明や繋ぐ支援。 ・家族支援							
			推進		4件					
			個別 自立支援型		4件 1件					
その他	地域ケア個別会議(年4回) 4事例全て、キーパーソン不在 3事例は、単身認知症、1事例は4世代全てに支援が必要なケース									
第一号介護予防支援事業(介護予防ケアマネジメント)	1.介護予防ケアマネジメント業務の適切な実施 ①予防プラン業務を適切に行う。 ②委託ケースの適切な管理を行う。 ③個人情報保護に留意。 ④社会資源を把握しプランに入れる。	包括作成件数	総合事業対象者		24件	予防給付の件数 令和4年 包括1,335委託 1,312 令和5年 包括1,567委託 1,215 令和6年 包括1,812委託 1,002	1.介護予防ケアマネジメント業務の適切な実施 ①予防プラン業務を適切に行う。 ②委託ケースの適切な管理を行う。 ③個人情報保護に留意 ④感染症対策 ⑤BCO計画 ⑥虐待防止対策			
			要支援1		1,023件					
		委託事業所作成件数	要支援2		765件					
			小計		1,812件					
		合計	総合事業対象者		17件					
			要支援1		399件					
		その他	要支援2		586件					
			小計		1,002件					
事業間連携	1.地域ネットワークの推進 継続で幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校に出向き、包括支援センターの役割を伝え、関係構築していく。 2.介護者のつどい ①みんなで座談会 ②医師との座談会 ③消費者被害予防 ④怒らせない対応 ⑤クリスマスコンサート ⑥調理実習	一般介護予防事業	こつこつ貯財教室(2回/月)	わたしの居場所作り		1.地域ネットワークの推進 ・わたしの居場所作り、多くの方が関われるように「くすつと笑える川柳かるた作り」を実施。小学校、中学校の冬休みの宿題、ふれあいの家等に声をかけ、約1,800句集まった。金賞、銀賞、銅賞、入選を選び、授賞式を開催した。家族も含めて70名ほど集まった。 南流山センター2階ギャラリーにて、受賞作品を展示した。 ・わたしの居場所作りのPR活動の演奏会の時に、地域の方々の絵画、絵手紙、写真等を展示した。 ・南流山センター祭りにて、高齢者の方が赤い羽根の募金(バザー)を実施。	1.地域ネットワークの推進 2.介護者のつどい	1.地域ネットワークの推進 継続で幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校に出向き、包括支援センターの役割を伝え、関係構築していく。 2.介護者のつどい ①みんなで座談会 ②薬剤師との座談会 ③レクリエーション ④消費者被害予防 ⑤クリスマスコンサート ⑥調理実習		
			生活支援体制整備事業	生活支援コーディネーター、地域のボランティアさんと、くすつと笑える川柳かるた作りを実施。						
			在宅医療介護連携推進事業	在宅医療介護連携会議 つむぐ会						
		認知症の人やその家族への支援	認知症サポーター養成講座	(回)	5回					
			家族会	(延)	509人					
			認知症地域支援推進員としての活動	(回)	6回					
			認知症初期集中支援チームとの連携	(延)	89人					
		その他	定例会議への参加							
			検討会議への参加							
		わたしの居場所作り ・幼稚園のPR活動のため、幼稚園児に高齢者の方が作った、可愛いおもちゃや小物、パネルシアター等を実施。								